



囚われた美少女捜査官
かみしろ
神代さくら

THE
COMIC

第4話

成年
コミック

二次元ドリームコミックス

漫画: 助三郎

原作: 筑摩十幸

キャラクター原案: 孤裡精

CONTENTS

003

第4話

038

卷末特典 ifショートストーリー④

(小説：筑摩十幸 挿絵：助三郎)

第4話



ようやく
起きたみてえ
だな



この部屋は
どっ...?



ガイ!!

ヒビヒビ
喜べさくら

今日から此処俺のへやで
同棲生活の始まりだ

魔薬を塗った俺様のチンポで
毎日何十回も犯してやるぜえ

せーぞ!!

ゾク!!

俺以外の男じゃ
満足できねえ
身体にしてやるよ



ヒビヒビ



大口を叩くわね
私に叩き
のめされた事を
忘れたの?



お前はもう
俺には勝てねえよ

俺のチンポを味わって
『雌』に目覚めちまった
からな



言った通りだろ？
お前は俺にはもう勝てねえ

は……放せ!!

雌の本性……

心の奥底では
俺のチンポが欲しくて
堪らねえのさ

なんて力……振りほどけない!!





あぁ?!

魔薬の所為...?

だ...駄目え!
力が抜けちゃうう!!

ドカッ

んんん

んんん

臭い唾液があ
気持ち悪い!!

嫌ああ!!

んんん

舌で頬の内側をお
敏感なトコロ
舐めないでえ!
ああああ!?

おらおら俺のチンポ
気持ちイイんだろ
イイって言葉よ!

誰がそんな
事お



嫌あ!!

イカされちゃう
イカされちゃう!!

気持ちイイ♥
気持ちイイのお♥

奥イイのお♥
嫌イカさんな3-





さあ今度はくちのロマンコで愉しませろよ



誰がそんな...!

え？
何この歯...たえ!?



歯は全部抜歯してシリコンに改造済み 噛めねえだろ?

ひ嫌ああ!!
喉の奥までええ!!

アウ!!
アウ!!

な…なんて事…
でも…そうか…

喰いしはれ
ないから先刻の
パンチで力が…

ちげ
違えよ
歯の所為だけであんな
弱いパンチになるかよ

な…なんで私の
きえる事が…

オラオラ
チンポ舐めて
濡れてるじゃねーか

やっばお前は
根っからの
淫乱だぜ



てん!

んんん
んんん

んんん
んんん

んんん
んんん





口内の敏感なところに
真珠も埋めた
擦られるとイイだろ？



膣内が
ヒクヒクしてるぜ
もうイクんじゃ
ねーか？



ヒヒヒ
クリトリスも
大きくなってるぜ



いやあ！回の奥
切なくなるっ！！

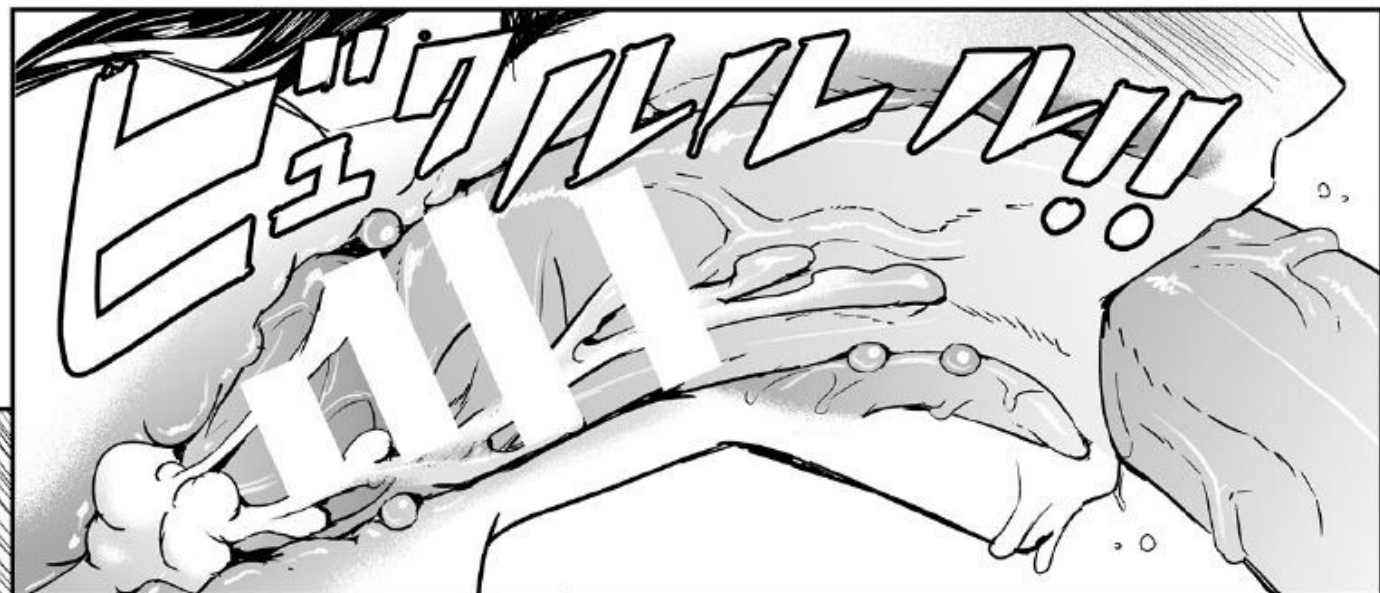


嘘回がこんなので
気持ちよくなるなんて...



こ...こんなので
イくなるで！

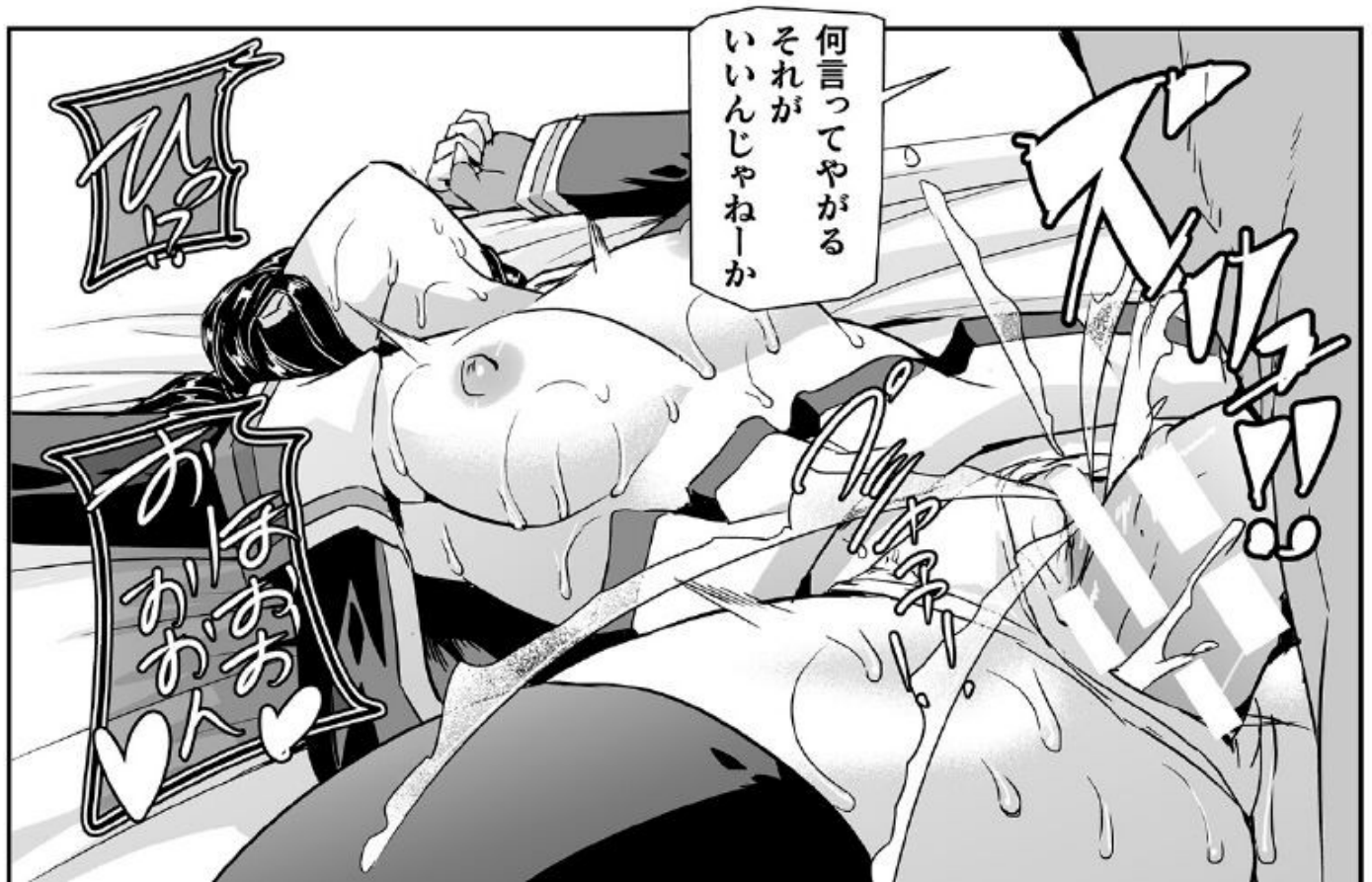
だ...ダメえ！

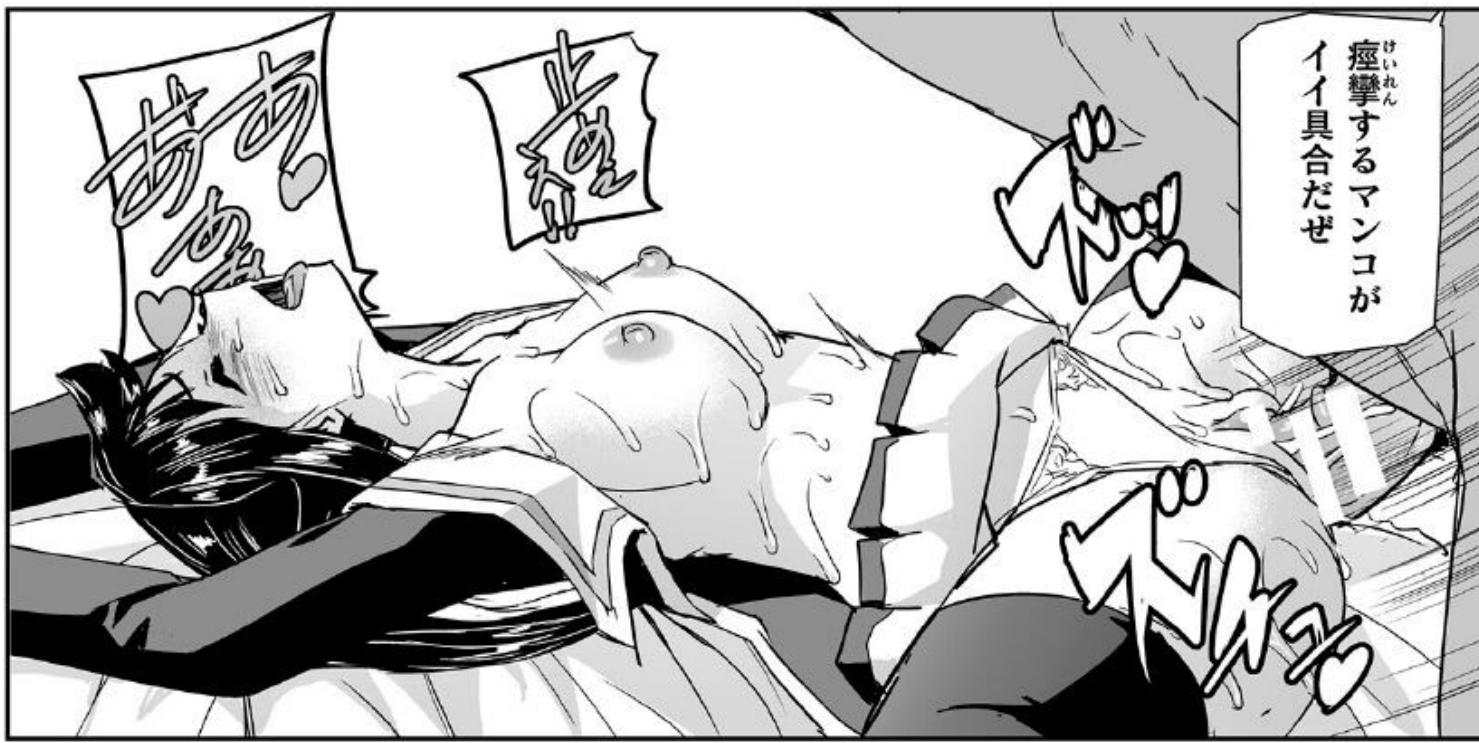


熱いのが
入って…!

—ウウウ—









顔を隠すなよ

嫌!!



俺のチンポで
よがってる顔を
もっと見せろ

奥う奥凄
い
チンポおお



見：
るなあ!!

イキッぽなッ
イキッぽなッ
イキッぽなッ
イキッぽなッ

イキッぽなッ
イキッぽなッ

おひいひい♡

しゅんじゅんまままま♡

アッ♡

おんんんんん♡
んんんんん♡
んんんんん♡

んんんんん♡





それから
何回SEX
したのかは
覚えていない





…朝…か…
昨日は
酷い目…



く!?!
やめ…!?!



ようやく
目が覚めたかよ



そんな事
言っていない!



昨日はあんなに
「チンポが好きだ」
って言ったのに
つれないじゃねーか





昨夜浣腸カテーテルを
挿入されて
薬が入ってきた途端…



思い出しました…

あぁ
♡



お腹の奥が熱くなって
本当にオチンチンの事しか
考えられなくなった

チンポ
唐いとお♡

チンポお♡

もっとお♡
もっとお味でえ♡



嫌!
お尻いじられながらおれと
感覚が蘇ってきちゃうぞ!!!

あぁん
♡



ん♡

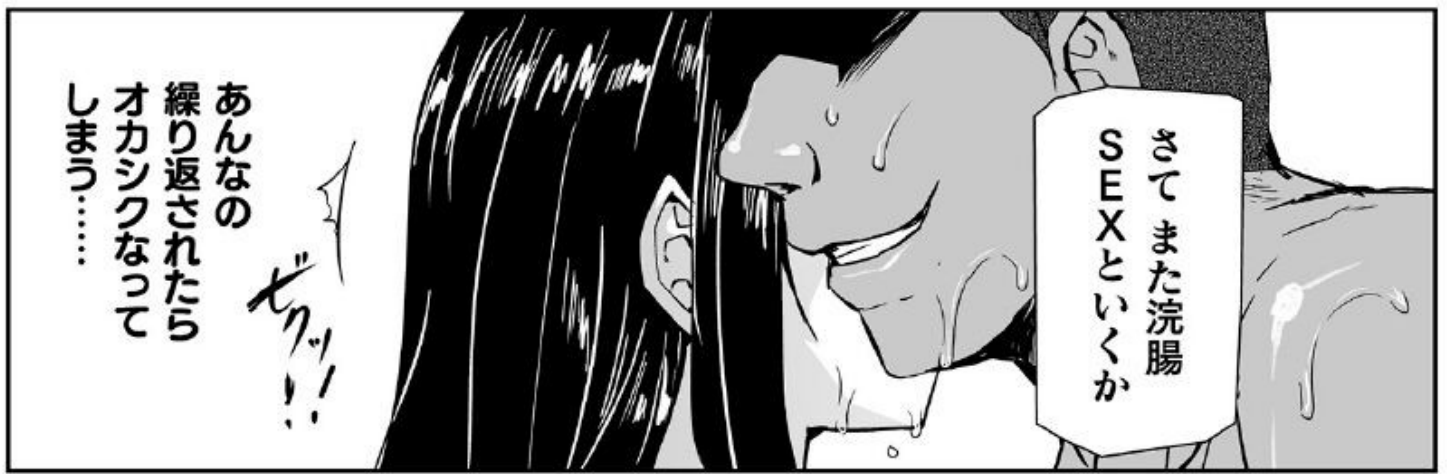


お尻とオマンコ
幸せで
いっちやうふうう ♡

お尻とオマンコ
いっちやうふうう ♡

いっちやうふうう ♡

お尻 ♡
オマンコ ♡



さてまた浣腸
SEXといくか

あんなの
繰り返されたら
オカシクなって
しまう……

ズグッ!!



お…お願い
それだけは
やめて…

言う事を聞いてやっても
いいがよ条件がある



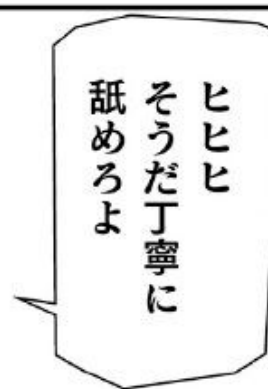
俺様のセフレに
なれよ

まずは手始めに
俺のチンポを
舐めるんだ



アリ流腸は強すぎて
何度も使える
モンじゃねーのこら

ギョロ
上手くいったぜ



ヒヒヒ
そうだ丁寧
に
舐めろよ



この日からガイとの
悍ましい同棲生活が
始まった

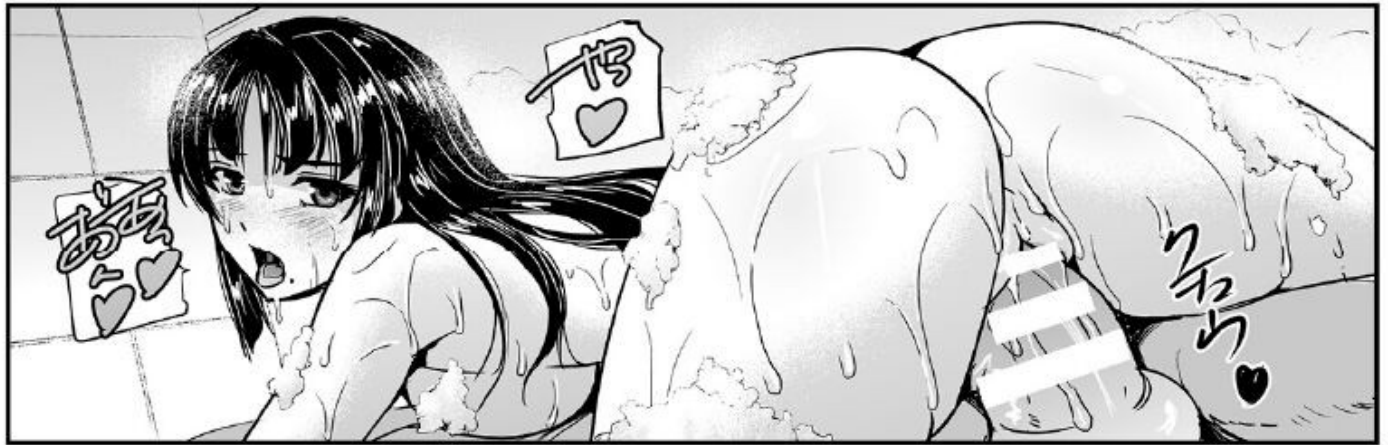
口で一発出したら
タップリマンコに
はめてやるからな

…はい…
嬉しいですう…



入浴中だろうが
トイレの最中だろうが
お構いなしに

ガイはほとんど
一日中SEXを
求めてきた



しかも
いつもSEX
しながらだった

歯が全てシリコンで
噛む事すら
できないので
食事は
ガイが咀嚼そしゃくしたモノを
口移して食べさせられる



また男を悦ばせる
様々な方法を教えられ
実践させられた



私の身体のあらゆる
部位の感度は上がり
敏感になっていった

更に魔薬や
ホルモン剤等の投与と
パイプやビーズなどの
道具を使った
「開発」によって…



筋肉はすっかり落ち
胸と腰回りが大きくなった
女の身体に…

そして三週間も経つと
自分でも分かるくらい
身体つきが変わってしまった



ガイと
さくら…？

なんであの二人が
連れだって歩いて
るんだ

おいさくらの
アノ格好
完全に痴女じゃね

ユサ♡

ユサ♡

間違いなくガイと
犯りまくってたな

一体どうしたの？

…さくら！





コイツはよ
俺のセフレに
なったのさ

俺のチンポが
大好きで堪らねーん
だよな？

う…ハイ…

さくらはガイ様の
オチンチンに
メロメロです

い…嫌あ
二人の前で
こんな事
言わせないでえ



スゲエ
道端で乳
もんでるわ

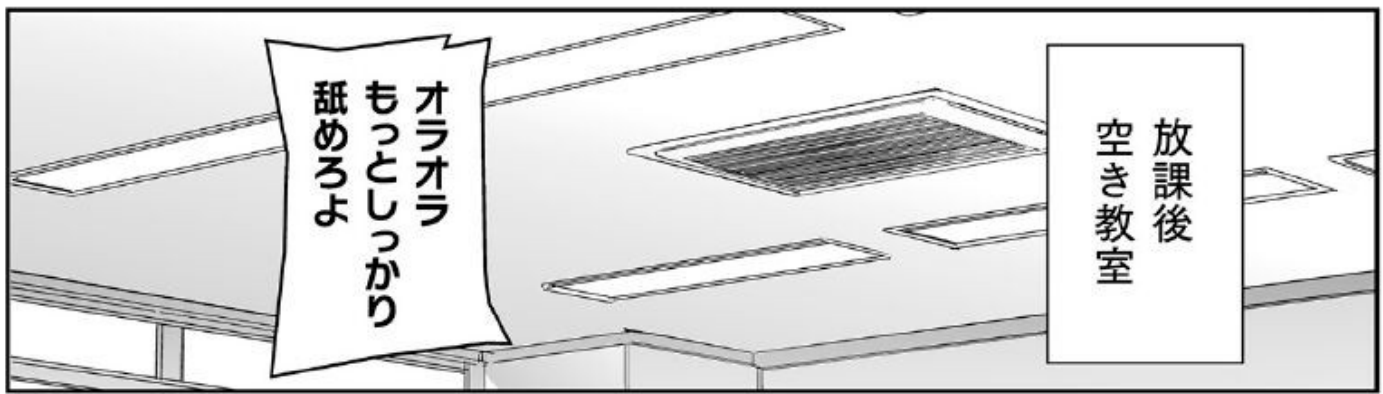


さ…
さくらがあんな

想定されていた
事でしょ

完全に堕ちきって
いないだけ
大したモノよ

まあそれも
時間の問題
だろうけど



放課後
空き教室

オラオラ
もっとしっかり
舐めろよ



流石ガイさんスね
あのさくらをこんな
に
しちまうなんて

ヒヒヒ
すっかり俺のチンポの
虜だからな



俺たちを
ぶっ飛ばした女が
イイ様だぜ

うお...!
もっと吸えよ
おお...

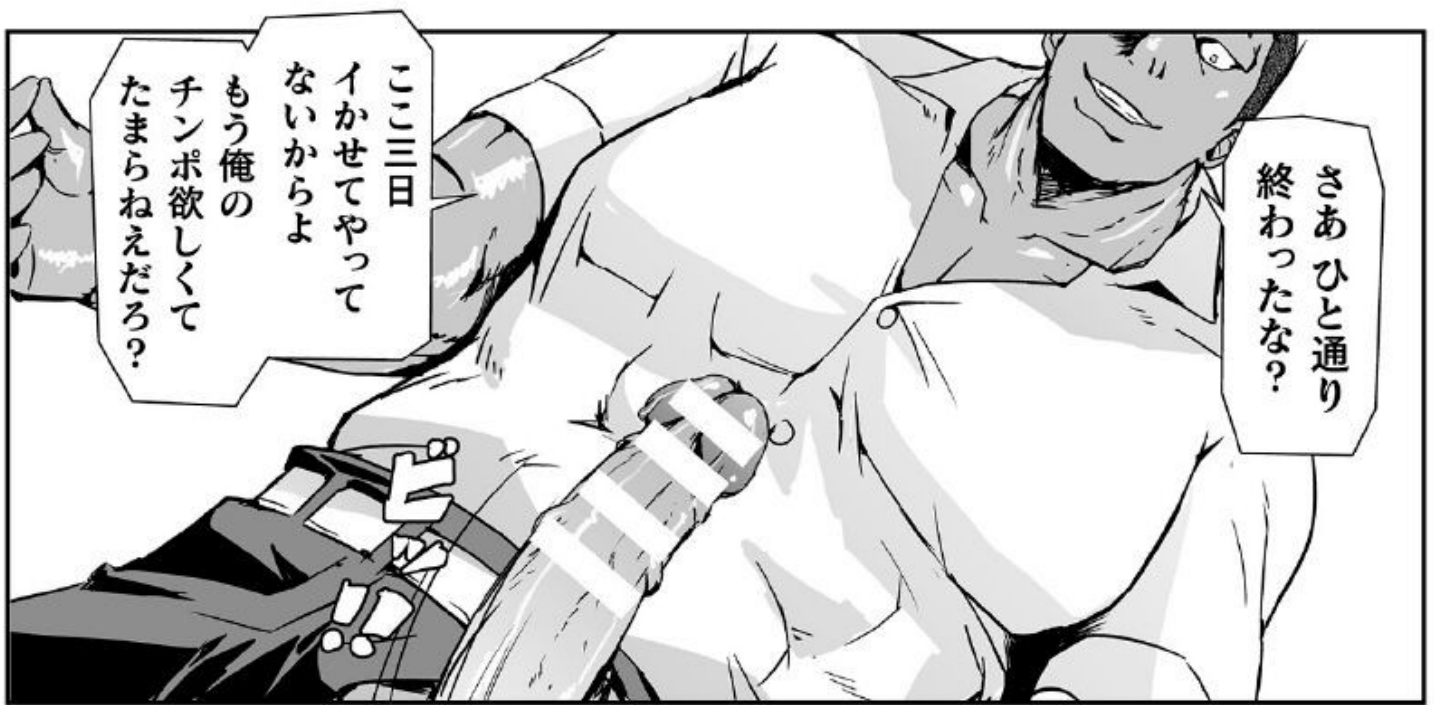
ヒヒ...もっと
股ひらけよ



うお 完全なロマンコだ
真珠が埋め込まれて
吸い付きがスゲー

うう...
こんな連中に
好きにされるなんて!

ガイさんに
大分鍛えられた
みたいだな



さあひと通り
終わったな？

こっ三日
イかせてやって
ないからよ
もう俺の
チンポ欲しくて
たまらねえだろ？



誰が
そんなモノ！

色々な道具で
虐められて…

寸止めばかり
されてたから…？
か…身体が
熱い…！



さあお待ちかねの
俺様のマラを
くれてやる

だ…駄目！

こんな状態で
挿入されたら…！！



そんな事言っても
股間はぐちよぐちよ
だぜ



カアッ！！



すげえ挿入れられた
だけでイッたぜ

とんだ
淫乱だな

ああ嫌あ
そんなんじゃない

ガイさんの
マラにメロメロ
じゃねーか

オラオラ
三日ぶりのチンポだ
嬉しくて堪らないだろ？

あああ！こんな大勢の前で
SEXしちゃってるっつー!!



自分で腰まで動かして
とんだ淫乱だな

嫌あ！
撮らないで

撮られてるう
撮られちゃってるうー！

れも腰が勝手にい
止まらない
止まらないのお！

ズキ

ズキ

凄えエロ女だな
俺また勃って
きちまった

おう二発も
出したのによ
俺もだ

おもしろ
面白え
このまま舎弟どもの
マラも啜えろさくら

ああ…そんな…

好物だろ？
啜えろよ！





私SEXしながら
オチンポ舐めたり
擦ったりしてるっ

じわじわ...
#6NDP...



母様.....!!



あんならしいなりたんなら

雌の匂いいい♡

母様みたいだ
もっと犯してえ♡

嫌ああ!
あんなのは駄目ええ!

オチンポお♡

イク♡イク♡イク♡
イク♡イク♡イク♡
イク♡イク♡イク♡

囚われた美少女捜査官
神代さくら
THE COMIC

囚われた美少女捜査官 かみしろ 神代さくら THE COMIC

if ショートストーリー④

著:筑摩十幸



昼休み、さくらは校舎の屋上に呼び出されていた。待ち構えていたのはガイとその取り巻きの不良少女たちである。

「約束は守っているんだらうね」

「ちゃんとガイ様にお披露目するんだよ」

「うう……わ、わかったわ……」

屈辱に美貌を歪めながら、さくらは屋上の床に腰を降ろしたまま、立て膝を拡げていく。太腿の内側の白い肌が陽光を眩しく反射する。羞恥にしつとりと汗ばむデルタに張り付いているのはシンプルな白のパンティだ。

「次はオツパイだよ」

「うう……っ」

制服の裾をまくり上げると、形の良い縦長のお臍に続いて、ノーブラの初々しい乳

房が露わになった。まだ青い芯を残す少女らしい乳房は、重力に負けない砲弾型の美形を保っている。

「裸は見慣れているが真っ昼間にこういう場所で見るともいもんだぜ」

好色そうな歯並びを見せつけてニヤリと嗤う黒人少年。

「うう……そんな……見るな……くうっ」

カアツと耳まで頬が紅く灼ける。昼休みの校庭から生徒たちの声が聞こえてくるたび、ドキツと心臓が跳ねた。

「恥ずかしいのはまだ早いんだよ」

「学園のアイドル、かみしろ神代さくらちゃんのストリップショーの続きだよ」

スマホのカメラを構えた色黒のギャルた

ちが意地悪く命令した。

「くう……っ」

舌を噛み切りたくなる恥辱に震えながらも、指に引っ掛けてパンティをずり降ろしていく。

「ヒューツ。いいぞさくら。もっと脱げ」

ガイの軽薄な煽りが屈辱を駆り立てる。

「ハア……ハア……だ、黙りなさいよ」

小さな布はクルクルと丸まりながら、健康的な太腿からふくらはぎへと見事な脚線を滑っていく。スウツと股間を通り抜ける風に、いやでも惨めな己の姿を自覚させられた。

「ほら、ガイ様に広げて見せるんだよお」

「くう……恥ずかしい……ううっ」

血が出るほど唇を噛みながら、抜き取っ

た下着を両手であやとりのように広げていく。

「へへへ、さくらのパンティ。エロいけどちよいと汚れているみたいだぜ」

秘部に密着していたクロッチ部分には、薄黄色い縦長の染みが広がっていた。

「ガイ様に説明するんだよ」

「うう……み、三日間……ずっと穿き続けた……汚^オパンティです……くうう……シャワーの時も……オシッコの後も……ふ、拭いてません……あううっ」

頭がおかしくなりそうな羞恥に歯噛みしながら、教え込まれた台詞を絞り出す。

（今はガマンよ、さくらー！）

行方不明の母の手掛かりをつかむために、今は堪えるしかないのだ。

「三日間穿きっぱなしだった。メツチャ臭^{にお}いそうじゃん。キツツイわあ」

「オシッコもマン汁も染みついているのね。そりゃクサイわ。キャハハ」

パシャ！ パシャ！ パシャ！

罵声と同時にカメラのフラッシュが浴びせられる。染みの部分はドロリと糊状に糸を引き、牝臭を放っていた。

（ああ……恥ずかしすぎて……頭が変になりそう……）

網膜を焦がすフラッシュの閃光に、脳の血管や神経が灼き切れてしまいそうだ。

「もっと恥ずかしくしてやるよ。三日間洗ってないエロ汚^オマンコのお披露目でえす」

意地悪そうな黒ギャルが釣り糸の付いたクリップを左右の陰唇に噛ませた。

「ぎゃうっつ！」

鋭い痛みを仰げ反るさくら。その間にも糸を引っ張られ、少女の初々しい花卉が開かれていく。ピチツと音がして濡れたサーモンピンクの粘膜が露わにされた。

「うあああ……そんなに……ひ、引っ張らないで……撮らないで……ひあああっ」

パシヤッ！ パシヤッ！ パシヤッ！

無慈悲なフラッシュが女の奥底まで暴き出す。羞恥と痛みが混ざり合い、灼熱の炎となつて理性を狂わせようとする。

「クリちゃんもビラビラも大きくなつてるじゃん。汚マンコエロすぎい」

「ガイ様に鍛えられて、熟れてきたんじゃねえの？ よかったわねえ、さくらちゃん。ギヤハハハ」

「ううう……」

ギャルたちの言うとおり、無尽蔵の精力を誇るガイに毎晩朝方近くまで犯され、溢れる程の子種汁を注ぎ込まれて、さくらの秘肉は急速に女として開花させられていた。小陰唇は赤みと厚みを増し、陰核も包皮を剥いてピンと尖り立っている。

膣肉だけでなくもともと控えめだった乳房も一回りは大きくなり、お尻や太腿の肉付きも目に見えて良くなっていた。

ほんの少し前まで処女だったとは思えないほどの成長ぶりである。

「グへへ、良い眺めだぜ。オツ？ マンコに何か入ってるじゃねえか」

さくらの蜜孔から白い紐が垂れ下がっているのを、ガイがめざとく見つけた。

「ガイ様に説明するんだよお」

陰唇を噛むクリップをギリギリと引っ張って、ギャルが迫ってくる。

「うぐうっ！ こ、これは……タ、タンポ
ンです……うう……毎日、五回……オ、オ
ナニーして……汚マンコのくっさいお汁を
……たっぷり吸わせています……」

年頃の少女にとって口にするのもおぞましい台詞を言わされて、少女の矜持は引き裂かれる。同性の視線や罵声は、男たちとは別種の猛毒を含んでおり、さくらを苦しめるのだ。

「ハアハア……こんなことさせて……な、何が面白いのよッ」

「アンタの汚ないパンツをブルセラショーツで売ってあげようと思ってね」

「汚れているほど悦ぶ変態がいてね。マン汁タンポンも高い値段で買ってくれるんだってさ。キャハハッ」

「な……なんですって……!?!」

黒ギャルたちの言葉にクラクラと目眩めまいを感じる。恥辱と汚辱の染み込んだ惨めすぎる下着を見ず知らずの変態男に買われてしまうなんて……。

「売るなんて……死んでもいやよっ」

「はあ？ ガイ様のお気に入りだからって調子に乗ってんじゃねえよ」

「落ち着けお前ら。コイツを使ってみろ
いきり立つ不良少女にガイが黒い棒のよ
うなモノを渡す。」

「そいつはさくらの刀の『鞘』を改造したモノだ。おもしろいオモチャだろ」

「くっ……父さんの形見を……よくもッ」

怒りで腸が煮え練りかえり、黒髪が逆立つほどだ。

「くやしい？ でも、さくらちゃんはこれからソレでヨガリくるっちゃうんだよね」

「アンタが大好きな魔薬もたっぷり塗ってあるんだよ。ウフフ」

淫具に改造された先端がアヌスに押し当てられた。ヌメ光っているのは魔薬クリームを塗られているからだろう。

「ああ……やめて……うあああつ！」

「ほらほら、ぶち込んで欲しいんでしょ、アナルマゾのさくらちゃん？ ウフフ」

「はああ……あああ……それを使うなんて、卑怯よ……ああむっ！」

浅く抉られる肛門粘膜がカアツと灼熱す

る。何度も浣腸による魔薬調教を受けた媚肛は性器に勝るとも劣らない鋭敏な快楽器官と化していたのだ。

「うう……ほ、欲しくなんか……ああ……ない……うああんツ」

口では否定するものの、ツンツンと菊門を鞘で突かれるたび、妖しい感覚がジワジワと広がってくる。魔薬を染み込まされる肛門粘膜がジンジンと疼いて、そこに何かを入れて欲しくなくなる。

（ダ、ダメ……そんなこと……考えちゃ……駄目なのに……っ）

必死に理性を総動員して悪魔の誘惑に抗うさくら。しかし魔薬によって脳や肉体の奥深くに刷り込まれた快楽絶頂の記憶は、今も生々しく蠢動している。

「グフフ。そろそろだなあ」

「ハアハア……あ、あ……あああつ!？」

ドクンッ！ ドクンッ！ ドクンッ！

突如全身が炎に包まれ、辺りの景色がグニヤリと歪む。それは魔薬の禁断症状だ。

(ああ……こんなことって……)

魔薬浣腸をされ、アヌスに太い蛇をぶち込まれ、そのままガイの巨根に媚肉を貫かれるという二穴責めで、数え切れないほど極めてしまった。その気も狂わんばかりの連続絶頂の記憶がフラッシュユバツクする。それが魔薬への渴望と相まって、さくらを内側から蝕むのだ。

「グフフ、やっぱり欲しいんだろ、さくら。

尻の穴がヒクヒクしてるぜ、へへへ」

「ンああ……ち、ちがう……ああ……ちが

うう……はあ、あああん」

ガイに囁かれただけでドキッと胸がときめき、肛門はヒクヒクと責め具を食い締めようとしてしまう。蜜孔もジュワツと愛液をさらに湧かせて、タンポンに染み込ませてしまうのだ。

「お薬が欲しいんだろ、ほらほら」

浅く挿入した鞘の先端をクルクルと回転させ、焦燥の炎に油を注いでくる。

「うああ、だめえ……ンあああッ」

焦れつたさに思わず双臀が前にせり出し、淫具を深くくわえ込んでしまった。

「あひいひいひいっ!」

それだけでも十分すぎる刺激が脳幹を走り抜け、禁断症状を抑えきれなくなる。

「アハハ、親の形見をお尻でくわえ込みや

がったわ。ほおら、もつと奥までくわえるんだよ」

「うああ、こんなことしたくないのにな……はあああんっ」

ズブズブ、ズブウ~~~~ッ！

魔薬への渴望に取り憑かれた菊門は柔軟に拡がり、独立した腔腸動物のように責め具を受け入れてしまう。

「あっ、ああっ……い、いや……こんなことさせないで……んああ~~~~ッ！」

「自分から腰を振ってオナってるくせに、何を言ってるんだか」

事実、黒ギャルは鞘を支えているだけで、排泄孔を責め立てているのはさくら自身なのだ。

「はあっ……はあっ……あああ……こんな

のいや、いやあ……あああむ」

魔薬の禁断症状は強力で、自分で自分を止められない。媚肛が捲り返りながら黒い鞘を呑み込み、浅ましい腸液をジクジクと滲ませてしまう。淫熱は媚肉も伝わって本気汁をタンポンに吸わせてしまうのだ。

「うふふ、コイツは高く売れそう。ほら、カメラに向かってもつと笑えよ、こう言いながらね」

ヴィインッ！ ヴィインッ！ ヴィインッ！
イインッ！

「アア、アアアア~~~~ッ！」

うなるように振動を開始する責め具。直腸から脳天まで突き抜ける快美の稲妻が、心と身体を真っ二つに引き裂いていく。

「うああ……さくらの……三日間穿きっぱ

なしで、匂いの染み込んだ……く、臭い汚
パンティを……買ってください……マン汁
タンポンもおつけしますう」

「はあああッ……も、もう……だめ……あ
あああゝゝゝゝゝゝゝゝゝッ!!」

壊れた笑みを浮かべながらギクンツと腰
が反り返る。被虐の頂点へと一気に登り詰
め、ガクガクと腰が跳ね踊り、乳房もタップ
と揺れ弾んだ。

「はあ……はあ……ああ……ううう」

「アハハ、もうイっちゃったよ」

「フフン、休んでんじゃないよ」

休息など与えられるはずもなく、黒い鞞
が一層深く衝き入れられる。

「あ、あううっ……そんな……」

「ガイ様のためにいっぱい稼いでもらうか

らね。これからは援交してもらおうよ」

パシャ！ パシャ！ パシャッ！

フラッシュが瞬き、『パパ募集中』などの
淫靡な落書きが太腿に描き足されていく。

「あ、ああ……いや……んあ、あああッ……
…アアンツ！」

おぞましい未来を告げられながらも、再
び腰がうねり出すのを止められない。一度
魔薬の魔味を知ってしまった身体は地獄か
ら逃れられないのか。さくらは絶望的で破
滅的な快樂に呑み込まれていった。

END



変態
ハハ草
汚マ
天由

二次元ドリームコミックス

囚われた美少女捜査官 神代さくら THE COMIC

【第4話】

漫画
助三郎

原作
筑摩十幸

キャラクター原案
孤裡精

装丁
マイクロハウス
編集
キルタイムコミュニケーション
発行
株式会社キルタイムコミュニケーション

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7 ヨドコビル1F

●編集部 TEL.03-3551-6147 / FAX.03-3551-6146

●販売部 TEL.03-3555-3431 / FAX.03-3551-1208

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、
ホームページ上に転載することを禁止します。
本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。
また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

©SUKESABURO ©Jukou Tikuma 2022

<https://ktcom.jp/>

【本作品のご意見、ご感想をお待ちしております】

本作品のご意見、ご感想、読んでみたいお話、シチュエーションなど
どしどしお書きください！ 読者の皆様の声を参考にさせていただきたいと思ひます。
手紙・ハガキの場合は裏面に作品タイトルを明記の上、お寄せください。

◎アンケートフォーム◎

<https://ktcom.jp/goiken/>



◎手紙・ハガキの宛先◎

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7 ヨドコビル

(株)キルタイムコミュニケーション 二次元ドリームコミックス感想係



神代さくら

かみしろ

肛虐魔悦の学園

囚われた美少女捜査官

筑摩十幸
挿絵◎孤裡精

リアルドリーム文庫

「絶対に……屈したり
なんかしないわ！」
親の仇が潜む学園へ
潜入した美少女捜査官を
魔薬調教の毘が待ち受ける!

原作
小説

書籍版・電子書籍版
好評発売中!